AEO保税運送の現状

平野ロジスティクスが取り組み披露

CIVI研修センター新大阪東（大阪市東淀川区）で昨年末に開かれたAEO事業者連絡協議会の阪神地区分科会。集まった通関・物流分野の関係者らを前に、プレゼンテーションの機会を得た平野ロジスティクス（田中英治社長、神戸市西区）の瀧村俊夫顧問は、「いまのところ残念ながらAEO保税運送者という資格に基づく輸送実績はない」と、サプライチェーンのなかの国内陸送を独立させる形の業務受託が実現していない現状を前置きし、同社の取り組みについて話した。

AEO制度は日本の国際競争力を強化するため、貨物のセキュリティー管理と法令順守の体制が整備された事業者に対して税関手続きの緩和・簡素化策を提供するもの。平成18年3月に輸出者を対象に導入されて以降、輸入者（平成19年4月）、倉庫業者（同10月）、通関・運送者（同20年4月）、製造者（同21年7月）と拡大されてきた。

同社がAEO制度に基づく特定保税運送事業者の認証を得たのは同25年6月。厳しい資格審査がともなうことで準備に2年間を費やしたが、西日本で第1号の取得事業者となった。現在も神戸税関の管内では同社だけで、全国的にも東京4社、横浜2社と3税関の管内で計7社という状況。個々の保税運送の承認が不要となるほか、輸出者から受託した特定委託輸出申告の貨物を保税地域外のエリアから直接、積込港まで輸送できるなど、認定通関業者と連携することで顧客に向けてリードタイム短縮やコスト削減などが提案できる。

成田や関西、中部などの国内主要空港に支店・営業所を構える同社は現在、全輸送量の85%を国際航空貨物が占めている。社内で法令・監査業務を担っている瀧村氏は同日のプレゼンで、昭和12年創業の同社が国際航空貨物の分野に進出した同52年からの歩みを話す一方、高まる大量輸送のニーズにともなってバラ積みからULDと呼ばれるコンテナやパレットへと変化する積載方法に合わせるため、現在では国際航空貨物を輸送するトラックの基本となっている通称「96車」を開発した経緯も説明。

一方、業務内容を大まかに説明した同氏は「こうしたハード面の取り組みと同時に、貨物の安全と法令順守の2つを柱とした体制の整備・充実化というソフト面の対応を図る必要性が高まってきた」とAEO認証取得の背景を明かした。法令・監査部門を新設したうえで、機能と責任権限を明確化するなど組織の整備を進めるとともに、いわゆる2次傭車を禁止するなど輸送品質の向上も徹底している現状を説明。『特定輸出申告』『特定委託輸出申告』による輸出貨物を運送できる基礎は固まっており、顧客のサプライチェーン構築の一助となれるように取り組んでいる」と結んだ。（長尾和仁）

「アドバンストペイ・セゾン」が好評

給料の一部を前払い

クレディセゾン

クレジットカード発行会社、クレディセゾンが昨夏から開始した新サービス「アドバンストペイ・セゾン」が好評だ。給料の一部を本来の支給日を待たずに一足早く前払いで、希望する口座にスピーディに振り込んでくれるサービスで、会社がクレディセゾンと契約することで、その会社の社員が利用可能となる。

クレディセゾンでは「急な病気やケガによる治療費などお給料日の前にお金が必要になった時、借金をするのではなくスマートフォンの操作だけで自分のお金を少し早く手にできる。前払いを会社に申し込んだり説明したりといった手間や煩わしさがなく、会社側も現金の準備や前払い処理の手間がかからない。給料支給時にクレディセゾ

きるのが強み

業めざす

業に本格参入

る。木元社長は「総合的に対応できるのが強み。会社の特色を出し、選ばれる企業を目指していきたい」と話す。

平成23年に社長を担い、病気や家庭の変化などで今まで通りに働けなくなっても配置替えで離職を防いでいる。

一昨年には、中学校の体育教師をして議会での活動でもメンバーから刺激を受けており、密な情報交換も行っている。

昨年を振り返ると会社の転換期にあたると話す。「製造業しいが、『木元産業で働けて良かった』と思ってもらえる環境づくりがまだまだ必要」と分析する。

木元社長の名刺には「AtoZ」の言能。木元社長は「父が亡くなる前に物流センターが完成したことが良かった。

木元社長

国際物流政策